

皆んなで選んだ
今月の秀句

改憲派抜き足差し足忍び足
選挙後は本音続々民意無視
増え続く空き家借金核のゴミ

寺内 徹乗
小山 宏助

尉

政権党の愚策を忘れない



虚偽答弁 118 回 国会を開きません！ 仮面の下は？

1 年を振り返ってみると...

- ・ 2020 年 1 月 23 日、中国武漢が閉鎖。
- ・ 翌日、安倍総理は春節を祝う動画を公開。
「中国から訪日を熱烈歓迎する」...
- ・ 国民の反対を押し切りオリパラ開催。
- ・ 支持が落ちれば仮面をかけ替え政権維持。
- ・ 熱狂と同調圧力を冷静に見つめる目を鍛えたい。

政権党の公約は信用できない。なぜそれを実現しなかった？
国民が望まない政策が続く、空き家や借金は増え、核のゴミは
たまり続ける。その裏で改憲派は着々と準備をしている。(周)

来月例会案内

1月例会
投稿締切
課題「新」
自由吟
自選句、自解筆もよろしく。

1月27日(木)
24日(月)
3句以内
5句以内

◆ 目 次 ◆

川柳互選・課題吟「続」	2
自由吟	3
ほのぼの川柳	5
おたより	6
風嵐について	6
川柳連作・《川柳ひと言》	7
投稿 美川・浄願寺 曼	8
烏帽子親について	10
連載／夢二「東京災難書信」	12
戦争前夜抄《34》	13
メディアの戦争責任②	16
編集後記を兼ねて	13

1 月の例会も誌上です。

11月の 川柳互選

◆ 点の付け方

推薦句◎…2点、準推薦句○…1点
 ◎3句以内。○全体の半数以内。

◆ 課題吟「続」(互選)

一人 3句以内吐

(投句14人/16人の互選)

1	伝統も秘伝も続くは外国人か	ふさこ
1	政権の続投許す弱体野党	尊柳
1	コロナ禍で道内再拡大続かないで	宏
1	永田町あたりばかりで動く歳費かな	ふさこ
2	続くには俺はまだまだ鶴彬	一角
2	叙勲祝い続々届く胡蝶蘭	ひろみ
2	叙勲祝い続々届く胡蝶蘭	ひろみ
2	続々と決まる当落午後八時	尉
2	暁を抱き続けて早二年	尊柳
3	死者五百万コロナ禍続く全世界	尊柳
4	れいわ党太郎に続け若者よ	未知子

4	蝦夷の地も線路続けよ廃止線	宏
5	分配が続かないです成長は	一角
5	亀の甲ほど歳かかえ中高年の事件続く	ふさこ
5	政権の続編ですか国滅ぶ	宏助
5	アベ・スガに続く軍事費七千億	宏
5	続編の続編であるアベノミクス	撤棄
5	飲み続けた母の活力養命酒	ひろみ
6	変異株続く人への逆襲か	未知子
7	保守政権続投許し茹でガエル	白眞弓
7	白熊の彷徨に見るこの地球	ダン吉
7	あっけなく消える夫婦の続き柄	尉
7	地球儀に続くヒト科の影がない	ダン吉
7	76年続く米国植民地	白眞弓
7	支援策欲しい弱者をスルーする	貴公子
7	継続は力 川柳また然り	尉
7	廃線となりふる里はもう届かない	ダン吉
7	9条を掲げて戦後を続けたい	北の山

8	8	8	8	10	10	15	15	15	16	17	18
嘘続々結果派閥のドンとなり	延々と続く歳費の無駄遣い	アベ政治派閥のドンとして続き	S D G sを蹴散らしでいく防衛費	総選挙どこまで続くぬかるみぞ	地下水の反乱続くリニア工事	後継もモリカケサクラ知らんぷり	想定外ばかりが続く地震国	後継のお面の中は安倍の顔	続編を期して寂聴眼を瞑る	選挙後は本音続々民意無視	増え続く空き家借金核のゴミ
立東爺	ふさこ	撤棄	貴公子	北の山	白眞弓	立東爺	宏助	立東爺	貴公子	宏助	撤棄

◆自由吟（互選）

一人5句以内吐

（投句14人／16人の互選）

3	3	3	3	2	2	2	1	1	1	1	1
眞子さんもティアラ持ってニューヨーク	死に水を取る約束はいたしません	主張するのは鼻マスクではない本意だせ	正義の味方昔ロシアも中国も	感染減維新に手柄奪われる	大王にかすむ小王プロ野球	美肌県我も県民仲間たわ	かみなり様マナーモードで休んでね	ここだけは別天地だとうそづく輩	大谷さん投打共に楽しみMVP	久々で笑って忘れるコロナ危機	辺野古沖七十メートルの軟弱層
一角	尉	ふさこ	立東爺	尊柳	尉	ひろみ	ひろみ	ふさこ	宏	ひろみ	未知子
											宏

尊柳

3	コロナ下選右傾化加速する日本	尊柳	5	通夜のようなカニ会食は黙々と	ひろみ
3	知らないうちに戦争になってた朝ドラで	撤乗	5	二桁のコロナにおびえる医療人	白眞弓
3	辺野古基地作らせない知事支持	宏	5	原発の取水口に迫る軽石	撤乗
3	岸田メモ黙る水呑みはぐらかせ	ダン吉	5	マイナンバー個人リスクの拡大よ	宏
3	坂昇るコミュニティバスはいつできる	一角	5	見栄だけの数字で踊っているコップ	貴公子
4	「独」核恣意参加へ日本見習え	宏	6	総選挙ちよつと維新に寄つてこか	北の山
4	中国の覇権主義世界が軋む	宏助	6	海はゴミ箱でない原発辺野古	宏助
4	野党共闘悪意の批判に晒される	尊柳	6	衰えしふぐりを包む股パット	尉
4	クーポンで中抜きさらに大幅増	白眞弓	7	街静か次の波かと立ち止まる	立東爺
4	我を張つてマスク談義が議会とめ	ふさこ	7	ノンアルの日本酒などはないですか	ダン吉
4	ベッド上で最期の涙耳穴に	ひろみ	7	老いの身に小春日和のプレゼント	北の山
4	マスク一枚鼻を出すのがそんなに偉いのか	ふさこ	7	エベレストアイスのように融けている	白眞弓
5	核未練ゴミ穴作れず御一服	立東爺	7	吹き戻す風に吞まれる浮動票	貴公子
5	皇室劇のクライマックス魅せたハグ	撤乗	7	拉致のこと一言だけは触れてはる	ダン吉
5	もつと聞けヨタヨタノロノ口の人々の声	ふさこ	7	人間のわがまま退治か新コロナ	未知子
5	帰国さえまごまごしてるわが政府	一角	7	政治利用された難民雨に濡れ	撤乗
5	鶴彬研究してた先進者	一角	7	重い課題の海の軽石	白眞弓

8	国事なり民意無視する基地造り	白眞弓
8	どちらにも転ぶゆ党の役どころ	尉
8	苦も楽も仲間と共に生き抜かん	北の山
8	危機管理口でいう間に第六波	一角
9	共闘の翼で越せぬ山はない	貴公子
9	介護入門一番前の席にいる	ダン吉
9	敗戦を忘れた議員認知症	宏助
9	コロナ株変幻自在の抑圧感	未知子
10	給付金の鼻薬嗅がされ閉じる口	貴公子

10	レジ前で金持ち気分のイト券	未知子
11	バラマキも再分配なら聞こえよし	撤棄
11	防衛の大義をかざし重武装	宏助
11	温暖化自然が叱り荒れ狂う	宏助
11	おめでとう化石賞ですお大臣	貴公子
12	ミャンマーの嵐に抗する指三本	立東爺
12	権力の味忘れられずぶら下がる	立東爺
12	安倍菅の失政隠す新首相	尊柳
13	改憲派抜き足差し足忍び足	尉

◆お詫び

岩佐ダン吉さんの句「せつかちな男と鍋を共にする」が選考資料から抜けてしまい、このページにも紹介できませんでした。申し訳けありませんでした。(周)

ほのぼの川柳

団体戦まさかまさかの優勝だ
クリスマス今も信じるサンタさん
きかんけど元気で何より我が子達
オミクロン徐々に人も車も慌てだす

神田 鯛
神田 鯛
神田 鯛
東 爺

おたより

◆岩佐ダン吉さんより（岸和田）

岸和田市ではこの秋、市主催・老人クラブ連合会協力の「高齢者・趣味の作品展」が。また私立図書館では「川柳展」を開催。「色紙になると私の川柳もまずまず」の声。岸和田川柳会はひろん2つの川柳教室からと22人が出展しました。読んだ川柳は市民にみてもらう。少し話題になりました。

年末からばちばち会場での句会です。でも主催者（会場の提供者）の配慮もあり参加は2／3程度です。それでも二年ブリの顔合わせであちこち「元気だったか」の交流もあり、まずまず。あかつきは来年の六月までは「紙上句会」とします。

◆風嵐（かぜあらし）について（周立東爺）

先月の句で、未知子さんの句、

草茫茫 移住させられた風嵐

が載っていました。課題が「風」で、「風嵐」が詠まれたのですが、句の完成度は別にして、この「風嵐」が分からないと他人には通じませんね。

そこで、聞いた風嵐のことを紹介します。

白山を水源とする手取川上流に白峰という村落があります。今は市町村合併で、「白山市白峰」ですが、以前は白峰村として独立していました。もつと以前は、牛首村うしくひと風嵐村に分かれていました。古い時代から林業、炭焼き、養蚕、薬草採取の村で、山奥の斜面では焼き畑、出作り小屋で粟や稗、蕎麦を栽培。江戸時代、白山を巡って争いが絶えず、周辺が天領とされました。風嵐は現在の白峰中心部から2 kmほど南、茅葺きで三十戸ほどの集落。落人伝説が残る独自の風俗・風習が残っていました。手取川ダム建設（1974年）を期に住民は移住させられ、「緑の村」として「整備」されたものの、現在は、草ぼうぼうの荒れ地と化しています。この風嵐が未知子さんの生まれた村でした。「故郷ふるさとの小さき祠風ほしらに耐え」

川柳連作「のりべん」 遠田亀公子

のりべんに不正の種が隠される
のりべんが国家の恥を曝け出す
のりべんで保身貫くお役人
のりべんで正義あざむく権力者
のりべんで悪の入管のさばらす
のりべんと認諾の手で切り捨てる
のりべんに巢食う無法を炙り出せ
のりべんに捻じ曲げられる民主主義
のりべんはアベ家由来の悪しき術
のりべんに今日もあぐらをかく輩

亀公子の《川柳ひと言》

私には左手人差し指の第一関節がない。
二十六歳だったか二十七歳の時、東京阪橋のあ
る工場に勤めていて不覚にも機械に挟まれ無く
したものである。寒くなると今でも痺れて痛み、
冬は特に好きじゃない。

鶴彬の昭和十二年の連作「すとりいき」の

中の「歯車で噛まれた指で書く指令」や昭和
四年「二本きりしかない指先の要求書」（翌
年には三本となっているが）の句を見ると、
当時のことが昨日のことのように思い出す。

私は東京のへば大学を六年かかって卒業
し、肩書きに拘るのをあっさり捨てて、前に
書いた通り工場労働者の道を選んだ。ロシア
の「ヴィ・ナロード（人民の中へ）」の思想に
惹かれていたのもあるが、私の周りには何人
もの仲間遠がいて離れる気にならなかったの
が本当だと思う。勿論、若さも手伝っていた
からだが。

私達は個人加盟の労働組合「北東京職工労
働組合」を結成、下層労働者の中へ飛び込ん
で行った。あの時の仲間達と共有した東京で
の十七年間こそ私の人生の宝物だ。今、次々
に舞い込んで来る欠礼の葉書に出会い、胸が
掻き爪しられている。



神・仏・拝む対象は？

浄願寺 曼（石川県美川）



先日お寺の行事で、富山大の遠山和大先生にお出で頂いて「インドネシアの火葬事情」のお話をお聞きしました。先生には二年前にも日本と欧米の火葬事情のお話をして頂いています。

細かいことは省きますが、私が面白かったのはお骨を拝まない話でした。イスラム教もキリスト教も拝むのは神だけなのです。家族が亡くなり、泣きながら葬式をしても、葬ったお墓を拝んだりはいらないのです。

日本人は拝む事には大らかですし、いろんなものを大切にしてはばかりません。お寺に御朱印で来られる人たちに話を聞いても、神も仏も別段こだわりはありません。とはいえ分の悪いのは仏かも知れません。神棚は神を祀り、仏壇は仏を祀るのですが、仏壇に参る人の多くは仏

ではなく先祖を拝んでいます。

そういう現実があるので、御朱印に來た方には、信じるのは神か仏かという話をよくします。大抵の方は信じるのは神と答えます。私もそう思っています。では仏はどうするの？と聞くと皆さん思い悩まれてハキとは答えられません。貴方ならどう考えますか。

仏教といえます。教えですから「学ぶ」ものだと教えます。仏を祀る壇と同じのが学校の教壇です。教壇には先生が立つて生徒にものを教えます。仏を壇に祀るという事は、仏を先生にするということです。仏壇で願う事はするなとよくいいますが、赤点をどうにかしてくれと先生に頼んでも、勉強しろといわれてお終いです。仏壇は勉強する教室なのです。

今は様々な仏像が作られてすっかり擬人化されてしまったので拝むのは仕方が無いのですが、仏教はあくまでも教えを学ぶものです。

先日、長年共に暮らした猫が亡くなったので年賀欠礼しますと葉書が届きました。感心して我が家の観音さん（奥さんです）に話すと、そういう

知らせを貰った人が、こんな非常識な事があるか！と投稿したら大炎上したと話してくれました。

何ものにも代えがたいほど大切なものは人であるなしにも、世の中の価値判断にも関わらないのです。

肝心なのは自分にとって何が本当に大切なのかを分かることではないでしょうか。そのことを本尊と言いついて表してきました。本当に尊いことが本尊です。

「尊い」は小五で習いました。覚えてますか？「優れた価値のあること」です。それに「本尊」が付くと、尊いと思つてることの中に本当ではない尊さもあるという注意になります。では、本当と本当ではない違いが分かりますか？

仏は自分を拝めとは教えません。ただ、本当と本当ではない尊さを教えてくれるのです。その教えを優れていると思つたなら、それを拝んで尊ばいいのです。

日本の多くの人は拝む事にあまりこだわりはないようですが、本当に拝むべきものと、本当

ではないものとの見極めが出来ていますか。もし分からないなら、学んでみてはどうでしょうか。

一一〇二年十二月十五日

来年も宜しくお願い致します

◆曼さま、ありがとうございます。「拝む、参る」について、まったくガーンと衝撃的なお話でした。つい先日、近い方が亡くなり葬儀で手を合わせてきました。その合掌を思い返すと、その方への「さようなら」という感覚だったと思います。宗派や習慣で合掌の意味もいろいろ違うんですね。これから手を合わすとき、曼さんのお言葉を思い出すことでしょう。

本当にありがとうございました。

(周)



えぼしおや
しばらく前までであった烏帽子親

岩原 茂明

中二、高中本校、十四歳になった私は高岡町中学校で立志式というのを受けて帰宅しました。母はそれを聞くなり「烏帽子親を探さない」といい出しました。

ネット辞書 Wikipedia によると烏帽子親^{えぼしおや}とは、元服儀式の際に加冠を行う者のこと。中世武家社会においては、男子が成人に達して元服を行う際に特定の人物に依頼して仮親になって貰い、当人の頭に烏帽子を被せる役を務めることが通例とされていた。この仮親を烏帽子親と呼び、被せられた成人者を烏帽子子と呼んだ。また、この際に童名を廃して、烏帽子親が新たな諱を命名する場合があった。その諱を烏帽子子名という。その名は烏帽子親からの偏諱を受けること

が多くなった。とある。その習慣が加賀ではごく最近まで受け継がれていました。

その夜、母は父と相談して、烏帽子親は TENT 屋さんの社長さんに決めようといいました。父は賛成しましたが「これは、大叔母に言わないといけない」といいました。

その大叔母は、烏帽子親になっていた方方は「殿様だ」と家柄とかにこだわっておられたのです。私はよく知っている、TENT 屋の社長さんならいいと思い大叔母にいいました。

田村 TENT のきく子、奥様はそれもどこかで聞いて、ずいぶん感激しておられ、「烏帽子子になるからには、実の子も同じ、なにかあったら、きく子の名を出していいわよ。お金のことで、乗り物の勉強したときでも、困ったら必ず相談しなさい」といつてくれました。

日曜日だったか社長宅で烏帽子を行いました。



あらかじめ洗濯した制服姿で玄関に入ると、羽織姿の奥さんにいつも通される

茶の間ではなく、松の木がよく見える仏間に通されました。上座で座布団を勧められて待つことしばし、社長はタキシードを召してきて、一礼するなり私の後ろに回り、大学の学帽を被せてくれました。

「すまんが、町中の貸衣装屋を探したが、烏帽子がない、代わりに俺の魂を被せる。以後、田村の姓を名乗られよ。田村茂明だ」といいました。私はおどろいてしまったが、あらかじめ父親から「どんなことをいわれても、しきたりでそういうだけだから心配するな」といわれていたので、「ああ、このことか」と心細いが納得しました。ただ、元服のときに頂戴するのは下の名だと思っていた

ので、びつくりしただけです。式が終わって、隣室に移ったら父が控えていて、そこで岩原家の紋入りのふくさをもらったので一安心しました。

社長から「何かわからんことがあったら、ここにはおらんけど鶴見君が事務局なんで聞いてみてくれ」ということでした。高松出身の方です。そこで後、鶴見さんが我が家に見えた折りに聞いてみました。「ふつうは下の名でないが？」と。「いや、鶴彬とか鶴見が烏帽子親のときはそうしている」今の私には鶴見謹四郎氏のことかと思えます。

これが私にとって、鶴彬という名を耳にしたはじめです。

そしてさらに五年後、大学に入学した私に烏帽子親から過分な祝いが届きました。そのお金でスーツを二着作りました。奨学金もいただきました。

(一)

連載

1923年（大正12年）関東大震災

東京災難畫信

竹下夢二

3

市役所の施しの自動車が、何か合圖をしたのか、時刻を知って待つてゐたのか、永楽町のある四辻へ自動車がとまると、その邊の塀の蔭から、社宅の裏門から、ぞろぞろ皿を持った男や女が、一斉に走つて出た。車上の男が

「二列に並んで下さい」と號令をかけると、逸早くずらりと二本の人間の線が出来る。私は、不思議なこの二本の黒い線を暫く見てゐた。その方へレンズを向けると、中でも年若い男は、それを見つけて非難するやうな険しい顔をするものと、少し気恥しい顔をするものを見た。殆ど腰のものと一つで皿を高くさしあげて、人を押しのける年^{とし}老^{おい}た女をも見た。

私は何か気の毒な気がして、その場に長くゐるに堪へなかつた。恵^{めぐ}む者が、恵^{めぐ}む心を忘れないためであらうか。施される者が、施される意識を持ち過ぎるためであらうか。私は知らない。



都新聞 大正十二年九月十六日 日曜日

戦争前夜の竹下夢二は昨年の会報9月号、11月号参照

連載

戦争前夜抄

34

周立東爺

メディアの戦争責任 ≪2≫

雑誌の世界はどうだった？

高橋隆治は『雑誌メディアの戦争責任』で当時の代表的雑誌『文藝春秋』『現代』『婦人倶楽部』などを例に、そのメディアの戦争責任について記している。

「序にかえて」の中で次のように書く。

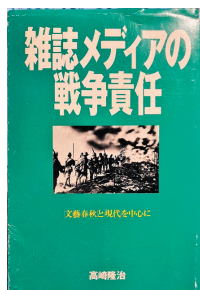
「総合雑誌についていえばたしかにその時期：つまり日中全面戦争段階では、『文藝春秋』を除く『改造』や『中央公論』といった大雑誌が、かならずしも戦争を支持する方向で時局に対処しようとはしていなかったし、特に『改造』は冷静な立場と判断を読者に要望していたといえる。むしろそれは明らかにそれと分かる直接的な表現ではなかったが、すでにそれを求める

には遅すぎる困難な時代であったことはたしかである。具体的に記すと、たとえば日中全面戦争開始直後の『改造』（臨時増刊号）の編集後記は次のように書かれている。

Ⅱ 一切の矛盾を含み、無限の問題を包蔵しつつ抗戦支那の情勢は移り行く。最後の血の一滴を賭しても南京政府が死守せんとする上海の戦こそ、今後の全局を支配すべき最も重大な鍵である Ⅱ

しかし注意深く読めばこの後記の筆者が、上海の日本軍や日本人居留民を中国軍が「包囲攻撃」しているのではなく、中国側は実は「最後の血の一滴を賭しても」日本軍の侵攻から中国、そして南京や上海を「死守」しようとしているのだということを読者に伝えようとしているのが分かるはずである。このことは、同じ時期の『文藝春秋』の後記と比較することによっていっそうはつきりするにちがいない。

Ⅱ 国民は政府を支持し、軍を激励する。涙な



くして、誰か国防献金運動の美しき至誠、千人針の至情を見ることができやう。挙国一致、国家総動員体制は忽ちに完成して、日支全面的激突何ぞ恐るるに足らんの覚悟はできた。この秋、文藝春秋は全日本国民に北支事変の真実の認識を要請し銃後の活動に資せんとして、事変増刊号を特集したⅡ

一部の突出した右翼団体……たとえ在郷軍人会や国防婦人会などの「献金運動」や招集された兵士の家族がする「千人針」の誓願を事例として、そのことで「国民は政府を支持し、軍を激励する」などと勝手な断定を下すのは、戦争の拡大を願望し意図する悪質なデマゴギーではない。引用文冒頭の「国民は」という言葉は「文藝春秋」と置き換えるだけで一切は明白になるはずである。」

高橋隆治は、このように雑誌編集者の困難な戦

争報道を察しつつも、本文の中で『文藝春秋』の右傾化の課程をつぶさに追っている。

『文藝春秋』は関東大震災の年、大正十二年一月に創刊された。ご存知のとおり、大震災は九月一日に起き、裏で朝鮮人大虐殺、甘粕事件、亀戸事件など様々な権力犯罪が起こされた。大陸侵攻直前である。

『文藝春秋』創刊当時の編集責任者は菊池寛。後に陸軍の要請で結成されたペン部隊の中心人物である。

半藤さんと保坂さんの対談

半藤一利さんと保坂正康さんが当時の雑誌について共著『そして、メディアは日本を戦争に導いた』（文春文庫）を紐解いてみる。

テロの時代の雑誌ジャーナリズム

半藤 新聞ジャーナリズムはとくに国家統制の先兵でしたが、雑誌はかろうじて頑張っていた。保坂 『中央公論』、『改造』などは頑張っていた



し、『文藝春秋』もちよつと違う形で頑張っているんですよ。
半藤 かなり頑張っています。
したね。『文藝春秋』というのは論文の雑誌ではないですから、匿名時評という形で頑張っています。

しかし、二・二六事件までの間に日本は一つの塊として統制されていき、侵略主義的な国家へと完成しつつあったんです。

保坂 一つの塊として枠組みが固まりつつあったも、まだ抜け出ようとすると、抵抗することはできるし、一部の人は実際に抵抗したんだけど、すると彼らはもう社会で生きていけなくなってしまうたんですね。

抵抗するような言論を発表すると、特高の刑事が来て恫喝する。家族に対しても圧力がかか

る。隣所でも白眼視される。どこに勤めていても、「あんたのところでは雇っているのは、とんでもない男だよ」と雇い主に言ってくる。要するに飯が食えなくなる。

だから、彼らは社会に恭順の意を表しないと共同体の中で生きていけなくなりました。

希有なジャーナリストもいた

そうした中で、希有な存在として、3人のジャーナリストを紹介している。

：だから、『東洋経済新報』の石橋湛山さんなんかは自分の戦い方を作ったわけで、非常に希有価値がある。多くの新聞記者たちが社会に恭順の意を表して組織に順応していったのに、石橋湛山さん、桐生悠々さん、菊竹六鼓さんのように戦い続けた人は希^{まれ}です。彼らが昭和ジャーナリズムの伝統をつくった人でしよう。

(つづく)

編集後記を兼ねて

▼ことし最後の
会報となりました

た。みなさまには世の中と生活を見つめ、川柳をひねっていただき、会報も充実してきました。▼最後と書きましたが、予告してあったように今年一年の同人別全句集を残しています。今まとめる作業をしています。年をま

「鶴彬を顕彰する会」の通信「はばたき」の購読をおすすめします。購読・3000円です。

1月例会ご案内（毎月第4木曜日）

◆例会 1月27日（木）◆投稿×切：24日（月）

◆課題「**新**」3句以内 ◆自由吟：5句以内

◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論などもよろしく。

◆オミクロン株警戒で例会は誌上となります。

●投稿FAX (076) 254-0762

●メールアドレスは下段に。

郵送は
下段住所へ。

たいで発送になると思います。▼また、計画では秋山茂さんの「ソ連抑留記」を完成させる予定でしたが、これも来年に回ることになりました。▼鶴彬を顕彰する会『はばたき』が印刷に入っていて、年内には発送できるようです。筆者もちよつと書いています。鶴彬研究初期の詩人・秋山清を紹介しました。▼オミクロンの感染力が七十倍とのこと。皆様もお変わりなく元気に新年を迎えられることを祈念しています。来年も川柳をひねりましょう。合掌。（周）

「和川柳社」会報
会員募集しています！

同人：4000円 / 年
投句 / 購読：2000円 / 年
★会報の他に、関連資料などもお送りします。

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30 (3-2) (渡辺 寛)

電話 FAX：076-254-0762 PC-mail：kananabe@popolo.org

携帯：090-9445-1302 携帯 mail：kan-wata@i.softbank.jp

振込先：北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」

発送に協力いただいています。

▼《食育のグリーンノート&土の音工房》オカリナ制作・上村彰